

様式4

令和4年度 第2回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立米子白鳳高等学校
 学校長 椿 幾雄

評 価 日	令和5年 3月 9日 (木)	
評 価・提 言	学校の所見・改善策	
<p>1 重点目標の達成状況について</p> <p>授業のユニバーサルデザイン化、エンカウターの実践、SSTの導入、体験的学習の充実、地域文化の継承などを実践し、生徒の背景にある課題に目を向けた教育課程の編成や実践などで成果を上げており、自己評価は妥当である。しかし、厳しめの自己評価をされており、もう少し評価を上げて良いと思われる。また、目標において、数値化してある項目に対しての具体的な結果(数値)を用いてわかりやすくすると良い。</p> <p>2 目標達成のための取組結果について</p> <p>学校と保護者、地域の人々の意志の方向性に共通理解を見出していくことが生徒たちのためになると思うので、取り組みをこれからも支持する。今後も地域と学校の交流を続けてほしい。また、「人間関係力」を身につけておかなければ、社会に出てから苦労すると思うため、社会体験やボランティア、職業体験などをもう少し取り入れてみてはどうか。現在の体制を維持し、さらに精度の高いものにするため、先生方は日々研修を積み、共通理解を図っておられると思う。今後もこの姿勢を貫いていただきたい。</p> <p>3 目標達成のために取り組んだ具体方策について</p> <p>地域のいろいろな人が学校に関わるため、生徒にとって学ぶ内容が多様である。生徒は地域の一員であるという意識を持ち、ふるさとへの愛着が生まれると思う。生徒自身の学びに応じたカリキュラムを選択することができるのは大変よい。さらに拡充してほしい。</p> <p>4 その他</p> <p>学校運営協議会において委員からの話は丁寧に聞いていただいていると感じる。学校からの説明もわかりやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や素材を活用した教育活動は、生徒自身の誇りや自信を与えることに繋がるため、本校ならではのと言われる事業の更なる充実を図りたい。 ・地域との繋がりを大切にし、地域連携による生徒の「ふるさと」とつながる心の育成に努めていきたい。 ・体験学習等において、多くの機会や人との出会いを作り、心豊かに他と共生する態度の育成に努めていきたい。 ・ICT活用環境下での新しい学びのため、研修等を通じて教員のスキルアップ向上を図りたい。 ・地域の人々との交流や、生徒自身が地域文化・伝統への関心を深めて参画していくなど、地域の人材や素材を活かした教育活動を推進していきたい。 ・「通信制課程学校内託児」について、PRする方法を検討したい。 	

様式3

令和4年度 第1回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立米子白鳳高等学校

学校長 椿 幾雄

評 価 日	令和4年7月14日(木)	
	評 価・提 言	学校の所見・改善策
<p>1 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと」とつながる心の育成において、学校がイメージしているふるさとのエリアを明らかにする。 ・体験活動による達成感を体験することで、生徒たちは自分を誇らしく思っているようである。これからも体験を意識した学校活動を進めてほしい。 <p>2 評価項目と目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な自立に向けた支援において、ふるさと＝米子から、米子城除草ボランティアなどを通して地域に愛着が持てるとうい。 ・学校業務改善に向けての取組において、教職員の長時間勤務の状況はどうか。最終評価を待たずに中間でのフォローが必要である。 <p>3 具体目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとキャリア教育の充実では、体験活動がたくさん行われており、大変良い。今後は地域行事ボランティアや清掃活動ボランティア活動などにおいて小学生、中学生、高校生が一緒に参加し、繋がりが持てるとうい。 <p>4 目標達成のための具体方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地域の行事に参加することで、小中学校時代に拍手を貰った経験のない生徒たちの気持ちを高めることができる。 ・さんご節や和傘づくりにかかわった生徒たちは、体験による達成感を体験することで、生徒が自分自身を誇らしく思い、それが自信に繋がっている様に感じる。 ・通信制の学校内託児は初めて聞き、生徒の個々の事情に寄り添って指導していることに驚いた。 <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生と語る会は、生徒も卒業生も学べる良い機会である。 ・郷土芸能部の三味線奏者だった生徒が、就職先の企業のイメージ動画を作成しており、高校時代の経験を生かして活躍しており、うれしく思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと」は鳥取県、米子、淀江すべてを想定し、それぞれの場面で共生する態度や心の育成に努めていきたい。 ・地域に開かれた学校として地域への学校参画を目指していきたい。 ・業務内容の見直しなど、長時間勤務者に対して対応を行い、昨年11月から長時間勤務が減少し、今年度も減少した状態が引き続いている。更に努めたい。 ・これからも体験活動をできる限り取り入れ教育活動を推進していく。 ・感染症拡大防止対策のため、体験活動が実施しにくい状況があるが、和傘づくりやヒガンバナの植栽活動など、今後も淀江地区との交流を推進する。 ・生徒の学ぶ意欲を支援し、安心して学校生活が送れるよう、個に寄り添った学習のための環境づくりを推進していく。 ・生徒が地域や職業への関心を深めるとともに、社会貢献につながるような教育活動を推進していく。 	